

海外体験で未来を変えよう

ECCセブ校×海外インターン セットプログラム体験記

語学留学+海外インターン 語学もキャリアも一歩先の自分へ

好川 依吹さん
(県立大学理学部3年生)



「迷っているなら、一歩踏み出した方がいい。
案外行ってみたら何とかなる。」

梢 俊介さん
(私立大学商学部3年生)



「英語が“勉強”ではなく、
“コミュニケーションの道具”になった1か月！
迷うなら絶対に行った方がいい。」

好川 依吹さん 体験記

好川 依吹さん

県立大学 理学部3年生

理系の学生が見つけた“世界で働く自信”と“将来の選択肢”

「行くしかない！」大学生活の中で見つけた、人生を変える夏

「大学3年、何か新しいことに挑戦したい！」そんなとき、このプログラムを知り、「海外で働く経験は普通できない」と直感し参加を決めました。

小さい頃から海外旅行の経験はあったものの、“一人で海外に行く”のは初めて。

「自分の英語力でどこまで通用するのか知りたい」「ホテルという異業種で挑戦したい」そんな前向きな気持ちで渡航しました。



■ 語学学校での学び × ホテル現場での実践

最初の2週間は語学学校で英語力を伸ばし、後半2週間は世界的なリゾートホテルでインターン。この“学ぶ→すぐ使う”環境が、成長を一気に加速させたと思います。

■ インターンシップ初日オリエンテーション

「本気の現場」人事部でホテルの歴史や業務内容の説明を受け、施設を詳細に案内してもらうなど、学生でも“一員”として扱われていることが実感できました。

「英語で働く」圧倒的な実践力

■ 英語で働くことで得た成果

チェックイン後の客室案内や設備説明など、全て自分の英語で対応。英語が伝わらない瞬間もあり、「発音が悪かった?」「聞き取れていない?」と落ち込むことも。

同僚の言葉：「お客様によっては英語が得意じゃないだけ。大事なのは困ったら“0番に電話して”と伝えること」

しかし、この同僚の言葉で、不安は自信に変わりました。2週目には一人でお客様対応を任せられ、初めて自分のサービスだけでチップをいただいた瞬間、「成長した!」と実感しました。

日本とは違う価値観との出会い

日本では出会えなかった価値観と、人の温かさ
働き方も、人との距離感も、日本とは全く違うフィリピンの文化



■ 「いい意味での適当さ」から学んだ多様性

日本でのアルバイト経験があるからこそ、「フィリピンの働き方の“ゆるさ”が心地よい」と感じました。“日本だけが正解じゃない”という視点は、働く姿勢を大きく変えました。

■ 国民性の違いが見せてくれた、人の優しさ

同僚やスタッフは驚くほど親切で、見返りを求めない温かさを感じました。また、現地独特の1つのグラスをみんなで回し飲みするスタイルの飲み会も、“距離感の近い文化”として印象に残りました。

可能性の広がり と 自分の武器

■ 就活で語れる「強み」が明確に

「臨機応変さ × 異文化環境で働く実行力」

英語・文化の違い・初めての職種という環境でも、自分で考え適応し、結果を出せたことは大きな武器だと実感しました。

一人でフィリピンで働き、様々な国籍のお客様に対応できた経験が必ず強みになるはずだと考えます。



■ 将来の選択肢が一気に広がった

将来の夢がまだ決まっていない私にとって、今回の経験は“可能性を広げるきっかけ”になりました。「日本で働くことだけが選択肢じゃない。」海外で働く生き方もリアルに想像できるように。

現地スタッフの“押しの強さ”に触れ、「自分もやりたいことには、もっと貪欲になりたい。」という新たな価値観も芽生えました。



海外でも一人でやっていける

—そんな“確信”が生まれた

この4週間で最も大きかったのは、「海外で働き、生活できる」という確固たる自信を持てたこと。英語力に不安があっても、「相手がわかるまで聞く」「シンプルな言葉で伝える」「臆せずコミュニケーションを取る」といった姿勢が身につく、「表面的な英語」ではなく“使える英語”に変わっていきました。



「迷っているなら、一步踏み出した方がいい。
案外、行ってみたら何とかなる。」



梢 俊介さん 体験記

梢 俊介さん

私立大学 商学部3年生

“英語が勉強からコミュニケーションツールに変わった1か月”

「机の上の勉強は日本でもできる」ただの留学では物足りない僕が選んだ道

ずっと「留学してみたい」という気持ちはあったものの、なんとなく機会を逃して3年生に。そんな時、プログラムを知り「海外で働く経験は、このタイミングでしか手に入らない。」と参加を決意しました。



実戦投入による成長

■ 語学学校でインプット → ホテル現場でアウトプット

語学学校では毎日しっかり勉強し、後半2週間は“Jpark Island Resort”でインターン。学んだ英語を忘れないうちに“実戦投入できる環境”が、大きな成長を生んだと感じます。

■ 初日のオリエンテーション

人事部でホテルの歴史と特徴を学び、OJTと施設を回って現場理解を深めたことで、「ここで本当に働くんだった」という実感が湧きました。

仕事としての英語への挑戦

■ お客様対応の中で、“英語が使える手応え”

最初に戸惑ったのは、“仕事として英語で伝える”という初めての経験。客室案内は難しく、「相手に正しく伝わっているか？失礼ではないか？」と不安だらけでした。

しかし、他のコンシェルジュに同行し何度も挑戦した結果、徐々にコツをつかんでいきました。

単語や文法は知っていても、渡航前は会話の瞬発力に不安がありました。

しかし、インターンを通じて、相手の話を“理解しようとする姿勢”と“とにかくまず返してみる勇気”が身につき、“使える英語”に変わっていきました。

フィリピンの働き方と友情

■ 現地で働くからこそ感じた働き方

上下関係がなく、みんな仲良し。日本のような堅さがなく、「自分の役割+気づいた仕事をする」というスタイル。好きなタイミングで休憩を取るスタッフもいて、「ここまで自由でいいんだ」と驚きました。



■ 楽しむことを忘れない文化

現地スタッフとは食事や飲み会を重ね、レンタカーでドライブに行ったことは“留学では絶対にできない体験”。マゼランクロス、TOPS展望台など、普通の観光とは違うローカルな思い出ができました。

人間関係構築とツールへの変化

■ 人間関係をつくる力が磨かれた

大切にしたのは、「人見知りをせず、自分から話しかける」という姿勢。文化への興味を持って質問すれば、相手も自然と心を開いてくれる。誘われたら積極的に参加する。その積極性が、現地でたくさんの友達をつくる原動力になりました。

■ “英語＝勉強”から“ツール”へ

“英語＝勉強”から“英語＝人とつながるためのツール”へ

4週間を通して得られた最大の成果は、「英語でコミュニケーションを取れる自信」でした。



未知の環境で動ける自分へ

■ 全く新しい環境でも、“委縮せずに動ける自分”へ

このプログラムで得た最大の成長は、「未知の環境でも、自分から行動して価値を出せる力」

日本人のお客様対応を自ら買って出たり、現地スタッフに積極的に話しかけたり、その行動力がチームからの信頼にもつながりました。

「現地で働き、文化を肌で感じた経験」は強烈なアピールポイントになると思います。



現地スタッフと築いた信頼。異文化を肌で感じて手に入れた“動ける”自分へ